
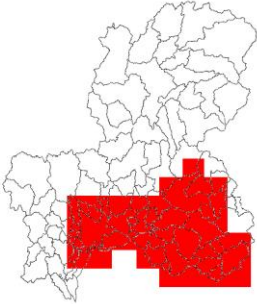


ヒナザサ		<i>Coelachne japonica</i> Hack.	準絶滅危惧
(環境省:準絶滅危惧)			イネ科
選定理由	湿地環境の減少などにより、生育地の減少が著しい。もともと生育地も個体数も少ないうえに、生育環境が悪化している。	写真(岐阜県博物館) 標本	
形態の特徴	稈は地表を這い、節から直立した枝を分け、高さ5-20cm。葉身は長さ1-3cm、幅2-6mm。葉舌はない。花序は長さ1.5-3cm、枝に数個の小穂をつける。第一小花は両性、第二小花は雌性になる。護穎は無脈で芒はない。		
生態的特徴	イネ科の小型の1年草。花期は8-10月。溜池の岸部にできる湿地や浅い水中に生育する。溜池では、降水量が少ない年などに、水位が下がって岸部の裸地が広く出現すると、多くの個体数を確認できることがある。		
分布状況	日本固有種で、本州から九州に分布する。岐阜県では、県南中部と県南東部に稀に見られる。		
減少要因	溜池の改修などの大規模な土地改変による。また、宅地造成や道路建設などによる溜池を含む里山の破壊。		
保全対策	溜池の改修時には、環境の改変を最小限にとどめる。溜池の水位を意図的に下げて、岸部の裸地や湿地をつくり出すような保全対策も必要。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993		

文責:福岡義洋